

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間らしく 楽しく 明るい笑顔がたくさんある暮らし 身体機能を維持していく暮らし」を理念として、職員と共にその実現に向けて熱心に取り組んでいる。地域との関係づくりも行っているホームであるが、新設された地域密着型サービスとしての理念が作り変えられていない。	○	平成18年の改正介護保険法で新設された地域密着型サービスとしての役割を目指した内容になっていることが求められる。職員全員で地域密着型の意義を確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化をうたった理念を作り上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関横に掲示されている。毎日のミーティングや職員会議の中で、管理者や職員が共に意識しながら話し合い、利用者の笑顔がたくさんあるホームづくりに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは運営者の敷地に建設され、また、運営者は地元住民なので地域との交流がある。地域で行われる祭りや福祉スポーツ大会等に利用者と共に参加している。近隣のログハウスの経営者とも災害時の協力を得ている。毎日の買い物も地域の人々と交流できる楽しみの一つである。職員も利用者の気持ちを考慮した触れ合いの支援に心がけている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や評価の一連の過程では、職員も良質なサービスを確保したいという意識を持っている。前回の外部評価の改善項目のうち、すぐ改善できることは取り組まれている。運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価および外部評価を実施する意義を理解し、評価を生かしていくという具体的な改善にはつながっていない。	○	自己評価は、項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要となる。評価で見出された課題について改善計画を立て、実施し、前回の評価結果や改善計画シートも点検し、質の確保、向上がどのように進められてきたかを確認してほしい。

宮崎県木城町 グループホームのぞみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3か月に1回開催している。会議では、検討・懸案事項について、一つひとつ積み上げた検討を行い、サービス向上のための取り組みをしている。評価への取り組みの状況等については、報告や話し合いができていない。また、自己評価の内容の説明や外部評価の公表がされていない	○	運営推進会議と評価を結びつけ、質確保を図ってほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは常に行き来する機会があり、運営やホームの実情を積極的に伝える機会を作っている。計画作成担当者もホームのパイプ役として関係づくりを行い協働関係を継続している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会、病院への受診（定期受診含）時に、利用者の暮らしぶりや心身の状態変化の報告をしたり、介護計画に反映できるように関係づくりに努めている。必要に応じて電話連絡をしている。また、入居前後の暮らしぶりやエピソード等を聞き、情報を基に楽しみごとにつなげている。		現行の業務日誌・金銭出納帳や各書類等の記名・捺印の再度点検と確認をお願いしたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け家族同士の懇親を深めてもらい、話しやすい雰囲気づくりに心がけている。家族等が意見、不満、苦情を言いやすく、外部者に安心して話せるようにしており、意見等は、ミーティングで話し合い反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員が交代する時は、利用者、家族の信頼関係を維持するために、残った職員で引継ぎの面や利用者の安心した生活の継続のためにも最大の努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には定期的に参加している。職員は自主研修を進んで開いており、学習したことを現場で伝達報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のスポーツ大会、事業所間の相互研修の受け入れ、職員の自主研修、2か月に1回の全職員の研修等を通じ、地域の同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居以前に通所系のサービスを利用している利用者はなじみが早いなどの利用者の特徴を敏感にとらえている。リビング周りの散歩や食事の団らん時、職員が寄り添って安心感を持ってもらうようにしている。サービスの場に徐々になじみ、安心して納得しながらサービスを利用できるよう、段階的な支援を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にうたってあるように、人間らしく、楽しく、明るい笑顔がたくさんある暮らしの中で利用者も職員もよく話し、よく笑っている。共に生活し、いろいろな思いを共感し、利用者のこれまでの生活の継続を支援している。利用者を師と思う関係もあり、協働の和やかな生活ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前後、家族や利用者至今已の暮らしぶりやエピソードを聞き、情報を基に利用者の楽しみごとにつなげている。なじみの関係ができないままサービスの利用を開始しない。サービス開始前後から、徐々になじみ、安心して利用できるように支援している。どのように暮らしたいか、誰に会いたいかな、利用者に寄り添いながら把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がこれまでの生活を継続し、安心の持てる暮らしの実現のために、本人や家族からの情報を基に、介護計画を作成している。利用者の望むことを反映した介護計画に、具体的内容（できていること）／検討するケア内容（どうすればさらによくなるか）の記述ができていないので、利用者の望む姿が見えていない。また諸記録を介護計画と連動できていない。	○	介護計画は、ケアマネジャーを中核に日々利用者に接し、多くの情報と利用者との信頼関係を築いている職員が作成する。さらに、ケアチームで、実現に向けての記録と介護計画を連動させると、計画に沿った評価と見直した内容が合致し利用者の望む姿が見える。しっかり作成されているので、豊かなケアマネージメントを展開してほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画はミーティングや勉強会等で利用者、家族の要望や変化に応じて、実現可能な介護計画になるよう見直しを行っている。介護計画は、期間が終了する前に見直し、状態が変化したときは、利用者や家族と話し合い終了前であっても検討見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族が、安心して暮らし続けていくために、利用者や家族のその時々々の状況に応じ、通院介助・特別な外出（墓参りや住んでいた家の見学等）の対応をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同意を得て、かかりつけ医へ受診したり、家族同伴で、希望する医療機関への受診を支援している。訪問診療に来てもらうこともあるし、かかりつけ医とも職員がなじみの関係を築きながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理や急変時に対応できるように、話し合いと方針の統一が行われている。現状では、該当者がいないこともあり、終末に対する対応方針が定められていない。運営者は、家族等及びかかりつけ医と重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早いうちに職員等とも話し合い、方針を打ち出したいと考えている。	○	重度化や終末期に対する対応方針を家族、医師、看護師等を交えて話し合い、職員と共通認識を持ち、見取りの支援のマニュアルを作成したり、近隣の医師と在宅療養支援体制を整えてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事時や団らんの時、職員はすべての利用者の動きや心身の状態に合わせた声掛けを行っている。人格を重んじることを大切にしている。ミーティングでも個人情報保護法の理解の引継ぎ伝達を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビング周りの散歩（車椅子の方には元気な方が介助しての散歩）、屋外散歩、縫い物、習字、塗り絵、新聞切り、ドライブなど利用者に合わせた柔軟な支援をしている。職員と心ゆくまでおしゃべりを楽しみ、声を上げて笑っている。		

宮崎県木城町 グループホームのぞみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材はホームの菜園から採れたての野菜やいただき物もあり、利用者の楽しみが引き出せている。食事一連の作業を利用者と職員が行い、笑いあり、語りありの食事風景が見られる。職員は、一部を利用者と同じものを食べている。		さらに、利用者と一緒に食事を楽しむ環境づくりに取り組んでほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広く、浴室設置の座シャワーの設置もあり利用者の身体機能に合わせた入浴の方法を取っている。曜日や時間帯は決めてあるが、希望があれば入浴できるよう支援している。異性の職員が介護を行う場合は、しゅう恥心に配慮した支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	明るい笑顔がたくさんある暮らしを目指している。日常生活が楽しみや張り合いのあふれるものになるように、利用者の持っている力を引き出せるように手続き記憶やエピソード記憶を聞き出して楽しみごとにつなげている。季節に即した屋外での散歩等も山々に囲まれたホームの特徴である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ベランダを居室前に設置し、庭を眺めたり、プランターに花を植えたり、歩行困難な方の身体機能を維持する工夫をしている。買い物は3人交代で利用者が荷物を持ったり、また、足の不自由な方は車中で待つ等、出かける楽しみを支援している。ドライブも積極的に行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が常に寄り添ったケアをすることで、目を離さないケアに取り組んでいる。利用者は、四季折々の季節の移り変わりを肌で感じ（干し柿を吊るしたり、スイカを植えたりする）自然環境を楽しみながら、鍵をかけない自然な暮らしの中で支援されている。		

宮崎県木城町 グループホームのぞみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の緊急連絡網を作成し、避難訓練を行っている。地元消防団の方が来て、年3回の訓練を実施している。近隣のログハウスの経営者と災害時の協力を得ている。台風時には、地元の消防団より数回の見回り、巡回の協力を得ている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員がこれまでの生活習慣や日ごろの様子を観察し、個別支援につなげている。一人ひとりに合った食事形態にしており、定期的に栄養の専門的な観点からホームの調理師や保健師から助言してもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室から交流の場所までの動線は、一人ひとりの利用者の状態に応じている。リビングは吹き抜けになっており広く明るい。また、家族が作った造花がテレビの横に設置してあったり、玄関等にも飾られていて居心地よく過ごせる。台所もリビングの側にあるので、生活の音や匂い、窓から見える山々の移り変わりが生活感や季節感あるものとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にお願いしながら、現在もその人らしく居心地のよい居室作りに奮闘中である。利用者のなじみの物を使いやすい場所に設えてある。		

※  は、重点項目。